

照 明の操作をさせていたいただきました。松本深志高校の演劇部のものです。

アレクシエービッチさんの話は、シヨックなことばかりでした。「チエルノブイリの祈り」を読みたかったのですが、残念ながら、大人気だったので、めか、売り切れてしまっていたので、又、本屋さんで、探してみようと思っています。

神田さんの講談は、アレクシエービッチさんの話とは一味違った良さがあつたように思います。効果的な音と光で、言葉の力が倍増して、心のなかに飛び込んできたような感じでした。とても聞きやすく、すんなりと神田さんの世界に浸れました。

とても充実した2時間半をありがとうございました。

より多くの人の感動を産み、より多くの被曝者が救われる事を祈っています。

小澤 奈々 (17歳)



普通生きていたら幸せに暮らしていたはずの人々が突然見知らぬものにまき込まれてわけもわからず死んでいき、残された人も幸せにはなれない。

ス ベトラーナさんのお話ではチエルノブイリの原発事故について、またベラルーシの現状について様々なことを知ることができました。今まで医療方面から主にこの事故を考えていたので、国の様子や、権力についても、また農民の方々の暮らしなど私にとつては新しく知ることが沢山あつて、とても勉強になりました。

・スベトラーナさんが「忘れられる」のではない。正しく理解されていないのだ、という言葉がとても印象に残っています。

・神田さんの講談では、号泣してしまいました。事実を懸命に伝えようとしている活動がすごいなあと思います。

・講談を見るのは初めてだったので、本当にひきこまれました。ありがとうございました。

苦しんでいる大切な人を目の前にしてふれることも許されないということはどうれほど辛いのか想像もつきません。

祈りが本当に誰かに届いてチエルノブイリが救われたらと思います。なにぶん学生で立派な支援もできませんが一生懸命祈っています。今日は本当にありがとうございました。

伊藤 萌 (15歳)

私 達がちょうど産まれた年に起きた大きな事件を、国家の圧力にも負けず世界中に訴えようとする勇気で、誠実で強い女性。本物のアレクシエービッチさんにお会いして、心からこの出会いに感謝したいと思いました。悲しいことに、この事件は風化しつつあります。

私達もさほど多くを知っているわけではありません。しかし、この歴史的概念に包まれているこの事件にも、そこには一人一人の生活や愛や未来があつ

私 には目に見えない、臭いが無い、何も感じられない放射能を浴びただけで、病气や障害、死ぬなんてことは今だに信じられない。しかし、そのようなことを信じなくては、ただの無責任、自分勝手になる。

チエルノブイリ原発事故は事実でもう取り返しがつかないのだけれど、その被害をもう広げないように、日本人が「島国の人」という思想から抜け出すべきだと思った。

近藤 広樹 (16歳)

教 科書に「チエルノブイリの原発事故」という一文をみつけたとき、私はその重さを全然感じていませんでした。

なので今回このような場に参加できて本当によかったと思っています。アレクシエービッチさんや神田さんから伝わってくるチエルノブイリの人々の様子や町や自然の状態の悲惨さ、悲

たことを忘れてはならないと思いましたが。

自らの過失による死でなく、他人の過失による死ほど辛いものはないと思いました。そして、その死によつて残された家族も辛いではすまされない思いが残ることも。

他に流されず、自分の信念にひたすら生きることがどんなに難しくてもどんなに美しいものなのかを見せつけられた感じがしました。とても有意義な2時間半でした。

神田さんの視線はものすごく強く、惹きつけられてしまいました…。ありがとうございました。

武居 みなみ (17歳)

千 エルノブイリの原発事故があつたことは知っていましたが、その土地の人々がどんなに苦しい思いをしてきたかをトークや講談で強く感じる事ができました。